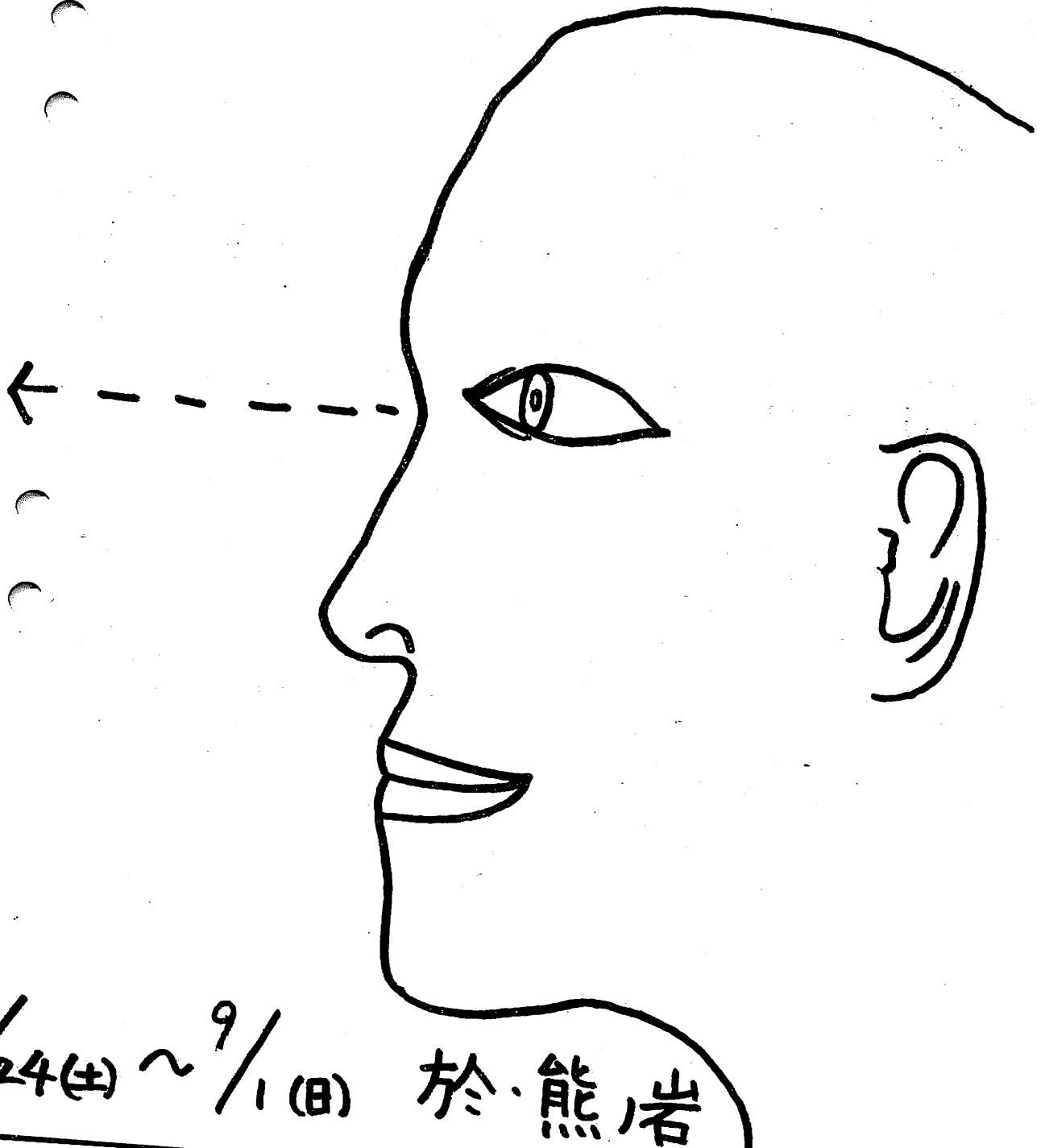


2002年度 信大山岳会
夏合宿報告書



8/24(土) ~ 9/1(日) 於・熊岩

目次

- 夏合宿記録 ... P2~P4
- 夏合宿 気括 ... P5
- 個人の反省・感想 ... P6~P15
- 係の反省・感想 ... P16~P18
- フエス左・五峰クラック
ルート図 ... P19.20.



【夏合宿記録】

計画名) 2002年度夏合宿

期間) 2002年8月24日～31日()

場所) 剣岳周辺

メンバー) CL佐藤祐樹(3年) 大橋 達也(1年) 横山 輝生(5年)

SL片寄 哲生(2年) 尾鼻 陽介(1年) 岸本 俊朗(OB?)

高谷 英太郎(2年) 潤澤 輝佳(1年) 大木 信介(OB?)

井上 あゆみ(2年) 水野 智章(1年)

三森 武志(1年) 計12名

計画日程) 8月24日(土) 松本=扇沢=黒部ダム～内蔵助平T.S

25日(日) T.S～はしご谷乗越～真砂沢～長次郎谷～熊の岩BC

26日(月) 登攀ルート

27日(火) 登攀 八ツ峰六峰・五峰フェース、チンネ

28日(水) 及び、 剑岳本峰南壁の各ルート

29日(木) 縦走 縦走ルート

30日(金) 源次郎尾根、八峰主稜、別山尾根

31日(土) BC～往路～黒部ダム=扇沢=松本

9月 1日(日) 予備日

行動経過)

8月24日 5:00 BOX(サークル棟)集合

7:55 黒部ダム出発(A隊)

8:05 黒部ダム出発(B隊; 以下B隊)

11:30 内蔵助谷出合

16:20 内蔵助平T.S

今年も2年生50kg、1年生40kgのボッカ。まさに牛歩戦術のように一歩一歩を進める牛7頭はやはり内蔵助谷出合を越えたあたりから徐々に疲れが見えはじめる。水は至るところで取れるので黒部ダムでの取水は少量で良い。途中の丸東の壁を見て興奮。

8月25日 3:30 起床

5:50 T.S出発 12:20 真砂沢ロッジ

9:30 ハシゴ谷乗越 19:00 熊の岩B.C

ボッカ核心の2日目。ハシゴ谷を難なく(?)越え、真砂沢ロッジまで行く。一昨年の佐藤の事故以来、ロッジには差し入れを渡している。小屋の主人は今年で引退し、来年は山にたくさん登りたいと言っていた。八峰付近の事故に関して、この主人はいろいろと聞わってきたであろう。心から感謝した。

長次郎谷出合付近から何やら崩壊らしき土砂が雪渓の上に大量に覆っていた。しばらく登ると八峰一峰の山頂がきれいに崩壊していた。大雨にやられたらしい。この土砂でボッカ隊はさらなる苦戦を強いられたが、高谷以外、明るいうちにB.C入りした。高谷は遅かったものの团装をバラさず、牛としてのフィナーレを立派に向かえた。

今日は本当にきつかった。よりによって崩壊した土砂が行く手を阻むことになろうとは、ま

あ荷物を抜かずに熊の岩までこれたのでよしとしよう。(記録帳より 高谷)

8月26日 6:00 F ix隊(横山・片寄)B. C出発

8:00 本隊起床

10:00 各隊B. C出発

各隊 (大木、高谷、三森) 中大ルート 下山 14:30

(横山、片寄、大橋) 剣稜会ルート 下山 17:00

(佐藤、尾鼻、水野) RCCルート 下山 17:30

今日からやっと本チャン。昨日の疲れもあり起床を遅くした。登攀に関しては皆の体調、疲れ、等を見て、柔軟に対処すべきである。F ix隊と合流し登攀開始。1年生は皆、初めての本チャンに相当緊張していたようだ。それにしても RCCルートは非常にわかりにくい。どこでも登れるのだが、いいルートとは言い難い。

8月27日 5:00 起床 7:00 各隊B. C出発

各隊 (大木、片寄、水野) 中央大、魚津高、熊の岩 下山 (記録なし)

(佐藤、高谷、尾鼻) 剣稜会、5峰 下山 (記録なし)

(横山、大橋、三森) RCC、京大 下山 (記録なし)

今年の魚津高は呪われている。魚津高ルートでは僕らが来る前に2件も事故があつたらしい。事実、新しいヌンチャクが回収されずによらず下がっている。しかし、ヌンチャクがぶら下がっているのは直登のルートで右のルンゼ状のところ登れば何ら問題はない。直登してグランドしたい。恐い恐い。1年生は、ある程度緊張もほぐれ、快適に登っていた。

本チャンは精神的にとても疲れるが、景色や達成感はフリーよりかなりいい。気持ちよかった。

(記録帳より 水野)

8月28日 4:30 起床 6:00 各隊B. C出発

各隊 (佐藤、大橋、尾鼻) 魚津高 下山 10:15

(片寄、高谷、水野) RCC、剣稜会 下山 14:00

(大木、三森) 富山大、剣稜会、魚津高 下山 13:30

魚津高を登り終え、懸垂中に1年生が大きい浮き石を落とす。幸い、誰も怪我はなかつたが2年前の事故を思わせる落石であった。結局、佐藤隊はその落石にびびり登れる状態ではないと判断し、魚津高一本で終わる。13:30ころ雨が降り始め、各隊懸垂で降りてくる。

8月29日 4:30 起床 13:30 源次郎尾根 2峰

5:50 B. C出発 14:30 剣岳山頂

7:30 源次郎尾根取付き 長次郎谷左俣のコル

12:00 源次郎尾根 1峰 17:30 熊の岩 B. C

八峰はそろそろあきたし、チネに行くには夕立が降りそうだ。ということで源次郎に決定。晴れた源次郎は快適そのもの。途中、巻き道と尾根のどちらかのルーファイに悩まされたが尾根が正解のようだ。去年は巻き道から行ったのだが、尾根はお助けシューリングが出る程度で後はゴツゴツした岩を快適かつ慎重に登る。おもしろい。50mザイルを2本持ってくるはずが1本忘

れてしまったのだが、2峰からの懸垂は50mザイル1本で十分であった。恥ずかしいミスである。剣の山頂に立つところには登り始め、下降中に雨が降り始めた。途中、左俣のコルの上でFixを張った。1年生がいるとき、特に雨天時には必ず張ること。ツルツル滑って非常にあぶない。皆が左俣のコルに着いたところには滝のような雨が降り、B、Cに向かって急ぐ。B、Cに帰ると集中講義で途中入山のタッキーこと瀧澤とヨーロッパ帰りの岸本さんと合流。皆に笑顔が戻った。

8月30日 4:30起床 6:00各隊B、C出発

各隊

- (大木、大橋、尾鼻) 中央大、富山大 下山 (記録なし)
(岸本、三森) Dフェース左、5峰クラック 下山 (記録なし)
(高谷、佐藤、瀧澤) 剣稜会、5峰 下山 (記録なし)
(片寄、水野) 富山大、剣稜会 下山 (記録なし)

夕立に降られることが予想され、テンネを断念。残念であるが仕方がない。また来年があるさ。岸本隊が登っていたDフェース左ルート、5峰クラックは非常に快適そうであった。(ルート図参照) 技術のある人はぜひ!

登攀終了感無量。速度増大。無事故無違反。健康優良児也。(記録帳より 片寄)

8月31日 3:30起床 11:20内蔵助平

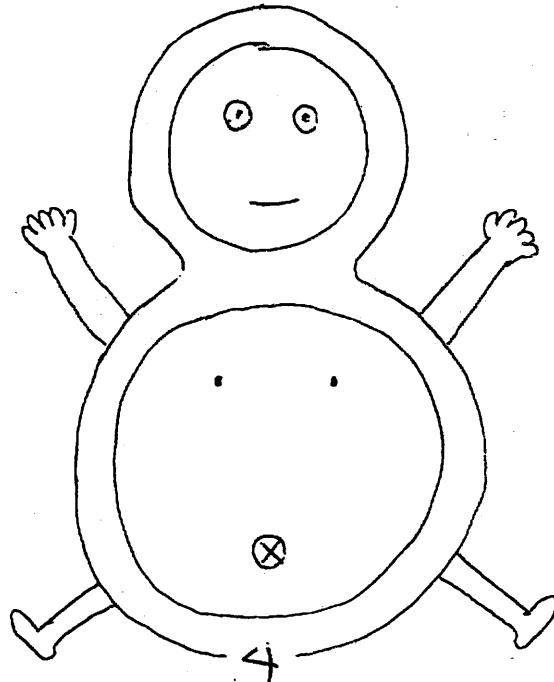
5:30 B、C出発 14:00内蔵助谷

7:45 真砂沢ロッジ 16:00黒部ダム

10:00ハシゴ谷乗越

皆、思い思いにB、Cを後にする。しかし、相変わらずキツイのが夏合宿下山の定番。たくさんの登攀具は下山なのに軽さを感じさせない。黒部ダム直下で1年生のバテが始まったがバスに遅れることなく無事到着。扇沢にて春寂寥を熱唱する。感無量であった。

下山は意外ときつかった。でも無事に帰れてホッ (記録帳より 尾鼻)



コレハナンデニヨウ

【夏合宿総括】

とりあえず無事故であり一安心であった。しかし、事故につながる可能性があった場面もいくつも見られた。それは隊としての弱さであり、改善していかなければならない点である。事故が起こってからでは遅い。可能性の段階でそれに気付き、主体的かつ自主的に改善を図るべきである。各自、夏合宿の反省をもう一度再認識し、冬合宿につなげて欲しい。

～登攀について～

今年は雨に降られ2年生を夏合宿前の本チャンにほとんど連れていけなかつた。そのためか、登攀技術が低い。まずは登攀スピードに関して。プロテクションは自分と壁のレベルに合わせてとるべきであり、数が多くいいというものではない。ナチプロのセットの方法は良くできていたのだが、遅い。これに関してはより多くの経験を積むしかない。素早く、確実にきめる。それからフリーの力に関して。これもスピードを抑える一因になっている。今後に期待する。

一年生は良く登っていたと思う。最初は緊張からか体が硬かったが徐々に慎重な動き方なつてきた。ただ、落石等の危険認識が足りない。今回、落石の恐怖に関して夏合宿前から口をすっぱくするほど言い続けたはずである。実際に起こってからその恐怖を知るのでは遅いのである。冬山においても言える。雪崩や滑落、起こってから知るのではあまりにも滑稽である。

チンネに行けなかつたことは非常に残念であるが、八峰だけでも全体的な技術UPをみられた。今度はもっと大きな壁に行こう。

～F ixに関して～

5, 6のコルのF ixは甘かつた。ハーケンの効きは悪く、懸垂点の木はぐらついていた。これでは問題外。さらに、このF ixは特に何度も使用するのだから、使用者はココを通り、ココで落ちたらどうなるかというところまで考える。例えば、右から行くほうが楽なのにまっすぐにザイルがあるのでザイルのほうに降りていく1年生がほとんどであった。こういうときは、ザイルを右のほうに寄せるなど工夫が欲しい。源次郎の日のF ixは良かった。トップはF ixが必要か否かを決める大切な役目がある。特に悪天候の日など思わぬ所でF ixが必要になることがある。このような判断を今後も期待したい。

～生活に関して～

今回の合宿は現役衆だけでは9人という少人数であったため、指示が出しやすく、全体を把握しやすかつた。一方、2年生はもっと指示を出すべきであり、個各人が動き、全体が動いているような形にもつていきたかった。誰か暇そうな奴がいたらすぐに気付いて仕事を与える。反対に、1年生はもっと主体的に、自主的に動くべきだ。次に何をやるか、もう分かるはずである。上級生の指示を待っているようではだめだ。このように個が個を補い、隊としての強さになると思うからである。

～その他～

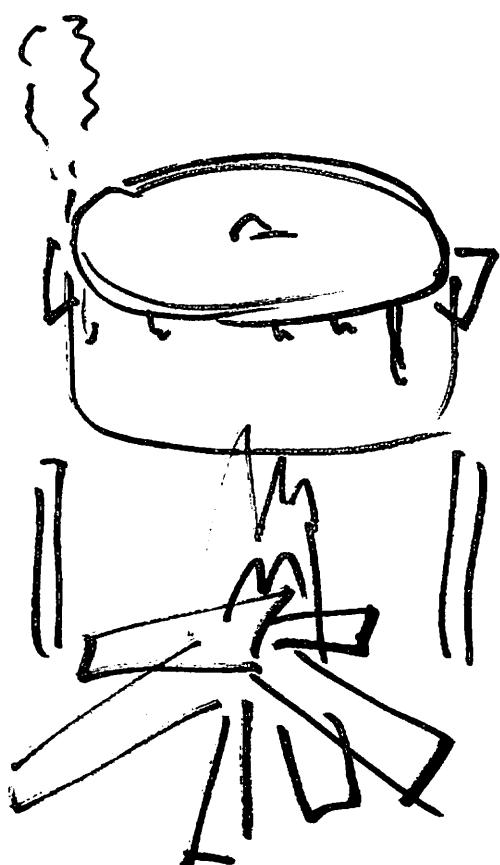
細かい反省を言つたらきりがないが、各々がたくさんのことこの合宿で学んだであろう。1年生は初めての本チャンで緊張しただろうが、楽しめたのならば幸いである。楽しめなかつた者もこれからもっと技術をあげ、八峰などではなく他のたくさんの山に行ってもらいたい。きっと楽しみが見出せると思う。

最後に、現役留守をして下さった中嶋さん、差し入れ、カンパを下さったOBに心から感謝します。どうもありがとうございました。

古

人

反省
感想



苦しかった夏合宿を終えて

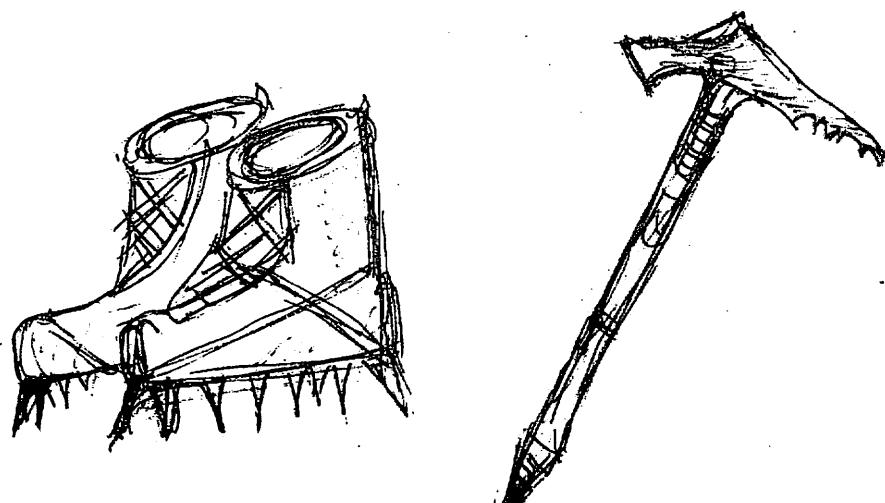
大橋 達也

正直、夏合宿は行きたくなかった。怖かったからだ。40キロを超えてる荷物、ずっとスランプで、岩に登るのが嫌になっていたし、まして、初めての本チャンである。本ちゃんの怖さはイヤというほど聞かされていた。前日は、なかなか寝付けなかった。初日、2日目のアプローチは、本当にきつかった。特に2日目の雪渓に入ってからは本当にきつい。登っても、登っても、なかなか着かない、足が重い。でも、自分よりもはるかに重い荷物を背負っている片寄さんと高谷さんを見ると、弱音なんて吐けない、気合で運んだ。そして運び終えたときは、すごい達成感があった。

初本チャンは、剣稜会ルートだった。簡単だが、スゴイ高度感があった。みんなは、笑っていたが、正直、メチャクチャ怖かった。技術的には、ボンドさんに連れていってもらった中大ルートの方が難しいはずだけど、全部で6本登ったルートの中で一番怖かった。やっぱり初めてだったからかな。ノックさんもボンドさんも自分なりの演出を考えていたみたいで、快適な本チャンを楽しむことが出来た。登っている途中には、高山植物が咲いていたり、ダイナミックな景色、頂上に立つ達成感は最高だった。

なかなかハードな源次郎尾根から、剣の頂上に立てたのも良かった。ただ、その下りは、すごい土砂降りと雷で、山の恐ろしさも垣間見た気がする。

夏合宿を終えて、反省しなければいけないことがたくさんある。かなり大きな落石を落としてしまったこと、一歩間違えれば事故になっていた、本チャンの怖さを忘れないようにしたい。そして、精神的にも、体力的にも、技術的にも、足りないと改めて自覚した。充実した夏合宿が怪我なく終えることが出来て、達成感でいっぱいだが、苦しい中で学び取ったことを次の糧に出来るよう、さらに頑張りたいと思う。



夏合宿はとても不安でした。今までよりも重い荷物、そして初めての本キャン、無事に終えることができることの心配でした。

アプローチでは足場の悪い所もあり、慎重に進みました。しかし、ザックをかつい時にたまにフラつく事があり、気を付けなければと思いました。

そして3日目からの登攀、私はとても緊張していました。一本目に登ったRCCルートでは、1ピッチ目でハラハラ言う程でした。しかし、その緊張感のせいで、慎重にまた今までよりも丁寧に登れたと思います。その後の登攀でも、一本目よりかは少しやわらかい緊張を保て登る事ができました。

また、目の前に大きな岩が落ちてきた事もあり、キャンの怖さも経験できました。

この夏合宿は、天候にも恵まれ、晴れた源次郎尾根も歩け、何よりも無事に下山できて、とても良かったです。

尾鼻 陽介

残暑より熱く

1年 瀧澤 輝佳

僕の夏合宿は必修の集中講義のため岸本さんに連れられ途中入山となってしまった。扇沢から室堂までバスとケーブルカーとロープウェーを乗り継ぎ、観光客に混じって、あつという間に立山の裏側（表側？）に回りこむ。もう立山はすぐ目の前に迫っていた。こんなにあっけなく 3000M 峰に近づけてしまうというのは、文明の利器に改めて驚嘆すると同時に観光登山に興ざめを感じた。いつか 8000M 峰さえもジョグシューで登れる日が来るのだろうか。いやだ！ そんなのいやだ！ 荷物はそれなりに重かったが熊ノ岩の BC までは半分下りの 6 時間で、最後の長次郎谷はさすがに少しきつかったが無事到着。生まれて始めてのアイゼンは快適に雪渓を歩けた。剣岳が新来者を撫然と見下ろしている。BC 到着後 5 分でどしゃぶりになり、雷も鳴り出した。空っぽの BC でどこにいるのか解らない仲間を岸本さんと心配しつつ、僕はエロ本を発見したのでテントでのんびりみていた（すみません）。雨が止み、みんなが源次郎尾根から帰って来ると、とても元気でいきいきしているので非常に羨ましくなった。二日間の熱いアプローチと三日間の本チャンでまた自信をつけたのだろう。

次の日、僕にとっては登攀初日にして最終日、初の本チャンだった。すばらしい快晴で陽射しが痛いくらいだ。たった 1 日の登攀が晴れて本当に良かった。ただの牛には成りたくなかった。佐藤さんと高谷さんのパーティーでまず C フェースの剣稜会ルートを登った。少し緊張したが難なく登れた。室堂から入ったせいか、自分が 3000M 近くの高所にいることにあまり実感が沸かず、高度感も感じない。名物の三角木馬に気付かずトラバースしてしまったのは一生の不覚。2 本目は V 峰に登った。これも問題なかった。腰がやや引けつつも切り立った V 峰の先端に立ち、歓喜と恐怖の入り混じったような雄たけびを上げる。

下山日、この日も快晴。雪渓がきらきらと光り輝き美しい。团装ツバリで 2 番目になったのになぜかザックが重い。アプローチより重い。团装は見た目で選んではいけないと悟った。それでもだいぶ持久力が付いてきたのか全くばてなかつた。単調でだらだら長い内蔵助平では井上さんに『春寂寥』を教わりながら歩いた。そして黒部川を遡りながらの BOND サンの言葉が印象的だ。「俺達は何でこんな重い荷物を背負って歩いていると思う？」「何でですかね。」

「これが青春だからだ。今が青春なんだ。はっはっはー。」いつもの調子でうれしそうに叫んでいた。臭い台詞のようで、なんだかストンと腑に落ちて納得した。青春に意味はいらない。ザックの重さにも意味はいらない。信大山岳会がまた少し解ってきたような気がした。

この日下界では各所で今夏最高気温を記録するような真夏日となった。しかし僕らはそんな残暑よりも熱かった。

夏合宿の

反省と感想

水野 智章

今回は各点に分けて反省と感想を書こうと思いま
す。

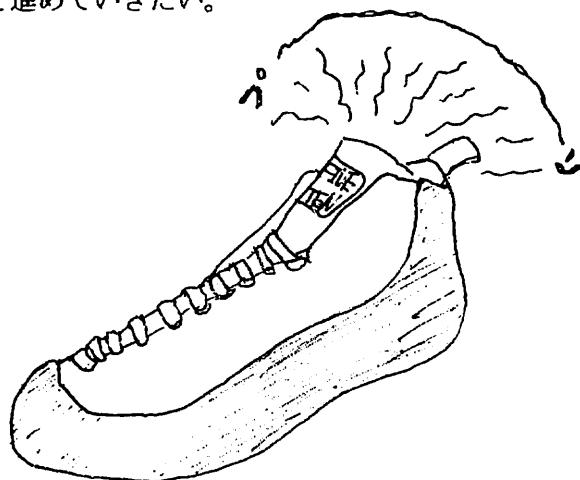
- アプローチ … 僕にとっては未知の重々のゲッタを背負いました。もっと重い荷物を持って歩いていく2年生を見て、自分の体力のなさを感じました。
- アルパインクライミング … 初めての経験でした。落ちてはいけない、浮石が多いなど、注意を相当要したので、精神的にとても疲れました。しかし、少し余裕が出るようになると、フリークライミングとは違ったおもしろさ（いうか達成感）を感じました。
- 源次郎尾根 … 岡崎の源次郎尾根を登りました。とても気持ちよかったです。途中でルートを誤って迷込んでしまい、危い岩場やハイマツの中を通りしきつとう大変な思いをしました。今思えばいい経験でした。
- 生活 … ついてきてくれたOBの方々が言うには「今までで一番ひどいエッセン」だそうです。今年の1年生は皆、料理オッチのようで…ひ修業の必要がありそうです。

夏合宿の反省・感想

三森武志

パッキングを終えて、はじめてザックを担いだとき、こんなに重たい荷物を背負って、果たして熊ノ岩まで辿り着けるのだろうかと思っていたけれど、何事もなく無事着けてよかったです。歩荷をしているなかで気になったのは、1本を取ってザックを担ぎなおすときに、体がよろめいてしまって、とても危なかつたことだ。ザックが重いときは、地形なんかも利用してなるべく安全に担げるようしたい。登攀の日はアプローチでの落石が多くかった。いくらガレているとはいえ、歩き方次第でなんとでもなるので、足の置き場や歩き方に注意するべきだったと思う。登攀では、ルート図の見方がよくわからなかった。リッジやらカンテやらわからない単語だらけで、勉強不足が思いやられた。登攀自体は危なげな場面もあったが、何とか無事に登れて、ピークでのひとときはとても快適だった。

チンネに行けなかったのは残念だったけれど、その分と言っては何だが毎日みっちりと濃い内容だったので面白かった。源次郎ではヤブこぎ全開だったし、左方ルートや熊ノ岩も行くことができた。なにより沈殿がなかったのが1番の幸いであったと思う。この合宿では、知識・体力はもちろん、経験が決定的に足りないと強く感じた。これからは本チャンについていくこともできるので、積極的に9月10月と進めていきたい。



夏合宿反省・感想 2年 片寄 哲生

牛卒業です！あ～お～げば～♪とお～とし～♪・・実に重たかったっす。内蔵助平ってあんなに遠かったかなあ？

白状すると、上級生達の応援にすらブチ切れそうになりかけた場面も多々あったものの、今冷静に振り返ってみるとあの声援なくしては熊の岩はおろか内蔵助平にすら着けたかどうか・・・。長次郎雪渓最後の場面で幾たび滑落していく我が身を思い浮かべたことやら。いずれにつきましてもサポート頂いた上級生に感謝の極みです。

思い返せば去年の夏合宿。人の担ぐ荷物とは思えないちょんまげ付きのガッシャを背負いきった佐藤さんの背中を見届けまして、来年は自分も！と少々怖気づきながら心に誓つたのでありました。本年、いざパッキングを終えてみれば案の定、（まさかの！）ちょんまげならぬコバンザメといいましょうか、親亀に乗った小亀と申しましょうか、まぎれもなくサブザックがガッシャに睦まじく結わえ付けられていたのでございます。昨年来体力もアップし縦走も経た上でのことですから、担ぐのに昨年ほどの辛さを感じなかったものの、実際担ぎ上げて見ますればやはり・・・G！！

歩荷についてはこの位にして、登攀についても少々。

去年の登攀はどこを登ってもビビり震えてばかりいたものの、今年はリードであるにも関わらずかなり自分自身楽しめた。何がよかったですと考えるとやはりヘキセントリックの存在抜きには語れない。特に魚津高ルート 2P 目はバシバシヘキセンが決まり気分は絶頂！もう少しでオールヘキセンリードが叶うところだった。

ヘキセンが 決まりやありードも 楽しいな といった感じです。

逆に RCC ルートはいまいち分かりづらく、憂鬱の一言。来年はもっとすんなり行ってお気に入りにしたい。

反省： まず登攀のスピードが第一。初めてのルートでも速攻できるようにならなければならない。ランナーの取り方、支点のセット等課題である。

OB、現役 OB に協力してもらった今回の合宿。リーダー会の度に 4 年生の穴の大きさを感じた。見ているポイント、気づくポイント、全然敵わない。当然と言えば当然だが、来年こそは現役衆だけによる合宿を実現するためにも当然とは言つていられない。上級生としてたった一歩の進歩すらもばかにできそうにない。

エッセンから：後半は予定人数の 2 人も少なく、昼飯系統が余るのはもちろん、食料が残るという前代未聞の合宿をしてしまいました。合宿飯のメニューについては舌が肥えて御帰還された OB から事こまやかにお達しがありましたので、この次のエッセンにて一層の精進を致します。

1 年生は少なくとも一遍は coco 壱の 1300 を制覇できるように！

夏合宿考

2年 高谷 英太郎

2年としての夏合宿が終わった。この合宿では、自分のいたらなきを再認識した。まずクライミング技術に関してだが、まだまだ技術が足らず、5峰と剣稜会しかリードできなかった。本チャンを中心に大学での山をやつていきたいと思っているので、下界でフリーの技術を向上させて、もっと高難度の壁に挑戦できるようになりたい。雪渓でこけたこともこれから、冬山に臨んでいく上で致命的なことになりかねないので改善していきたい。クライミング以外のことでは、上級生としての責任を果たせなかつたことが一番大きな反省として挙げられる。下級生に対する適切な指示など上級生としての仕事を十分にこなす事ができなかった。これも改善していきたい。この合宿で唯一良かったと思えることは、60キロ近い荷物をばらさずに、ベースまで上げることができた事である。このことは、自分の中で大きな自信となった。いろいろな事があった夏合宿であるが、この合宿の経験を無駄にせず、冬に向けて気を引き締めて取り組んでいきたいと思う。



モク、モク！

夏合宿の反省

今回は、縦走合宿後の岩トレを一度も行わなかつたため、はじめから登はんはしないということで参加した。それがあつてか、久し振りの合宿だったからか、自分の中ではいまいち締まらない合宿となってしまった。

一年生を見るという面でもリーダーをサポートするという面でもうまく動けなかつた特に一年生を見るとときは、自分が一年生だったときに何が大変だつたか、何がこわかったかをよく思い出して見なければならぬと感じた。意外と自分が思つてゐる以上に成長し、山に慣れてゐるのである。

しかし、30kgながらも熊の岩まで無事に歩荷できて本当によかつた。(きっとちゃんと君が生死の境をさまよつてたからだけ) そうバテることもなく、暗くなる直前にベースに着くことができたのは、『ヘッドライトを出してなるものか』という意地からだ。

ジャンボさんの言葉どおり、次の朝起きるとそこは天国だつた。

テントから顔を出すとそこには岩が・・・！

水場も(キジ場も)目の前・・・！

八つ峰がこんなに近い・・・！ そしてカッコイイ・・・

剣稜会に行って、源次郎尾根にも行って、
帰りの内蔵助平までのだるくて長い道を
タッキーと春寂寥の練習をしながら歩いて、
とっても楽しい合宿でした。

皆さんありがとうございました。 お世話になりました。

二年 井上あゆみ

夏合宿の反省・感想と今後 佐藤祐樹

夏合宿に行くあたりより考へたことは、昨年の事故のことである。自分の身で起ったことで、あ、たため、事故は、この走りうる様な事態を容易に想像できた。だが、日々のトレーニングの中で、その可能性をできるだけ排除しようと努力してきたつもりが、その可能性を夏合宿の中で見出していく自分がリーダーとしての無力さを感じた。

そんな思いは、毫腹に歴日以前とされいでいた。昨年、ハイコーターの中で、見て歴日は圧倒的であつたが、またそれ以上もあった。異端と言、どちらかといかかもしれない。今年もそれに似た感覚を歴日感じていた。

今回、夏合宿は現役衆で47名、9人と少人数であった。やはり大人数の方が楽しいし、登山の中でもんかうで、しかし、少人数だと良いところがある。全体を把握しやすい、指示がよく伝わる、まとまりやすいなど、少人数だと、一人一人が意識的にレベルして上げ、競争と競争して、全体としてレベルが落ちか激しい。よって、"少人数精鋭"を目指していきたいと思われる。そのためには個人、個人が自分なりに意識して技術のUP又は知識の習得を目指す、個々発展を3つ1つのモードとするか補い、全体を強めていく必要がある。一年生、二年生共にこの点でこれから最も意識して欲しい。

最後に、これから、せめて自分の反省感想だけは... と今の時代と今たつ手書きと云ふやう、エレキもいいが手書きのかく味がある。

係

の

反
省

感
想
人

装備 高谷 英太郎

- ・ ハーケンの数は、今年のままで良い。
- ・ FIX は、 $7 \times 50 = 2$ $\times 25 = 2$ FIX ロープは、状態をしっかりと確認して持っていく。
- ・ 団装で、カムがあった方が良いかも。無い場合は持っている人から借りる。
- ・ ザイルの中心は、テーピングの一重巻きで十分。ガムテで巻くと、ビレイ機のとおりが悪い。
- ・ ザイル袋に「装備 1」等の印をつける時、ザイル袋にそのままガムテをはってその上に書くのではなく、ザイル袋のループの所にガムテをつけてそこに書いたほうがはがれにくい。
- ・ パーティー数などは、早めに把握してそれに応じて準備すること。
- ・ 食器や鍋を洗うスポンジを忘れるべからず。
- ・ 焚き火用に、鋸を持っていくと便利。

昨年の合宿であったはずの装備が数多く紛失していた、道具の管理は日頃からしっかりとやろう。

○合宿で紛失したもの△今後使用不能となるもの

○ ハーケン (ナット 2 アンクル 2)

○ カラビナ 4

○ シューリンゲ 5

△ ザイル 9x50 1本 落石のため、内部が損傷

△ Fixロープ 赤全部 もぐら、たこによる、外皮と内部のすれ

エッセンスについて

* 片寄り個人の反省、感想参照

係の反省 井上 あゆみ
(会計・涉外) 合宿費 23.000円

収入 21万3200円

支出 18万7830円 → 食費 75,292
装備費 85,788

(うち3万は特別会計より)

交通費 47,460

その他 9,290 (お酒など)

残高 25,370円

- 車を出して下さった方には1回2000円支払いました。
- 5年生以上の合宿費は、食費・交通費・参加日数をきっちり計算して決めるべきでした。今回は大体のところは合っていますが、大変失礼しました。
- 残金は特別会計にまわします。

(気象・医療)

- 今日は一人が軽く内出血をおこしただけで医療缶は開けませんでした。みんな元気だったのが何よりです。
- 夏合宿だけは虫さされ用にムヒやらウナやらあってもいいかも。内蔵助谷はすごいですね。
- まだ天気図がしっかり書けない1年生がいます。
冬までには絶対に完璧に!
部屋で一人で練習しても間違いに気付かないんじゃない?

ビレイポイントから左上し
リッジに出る。リッジは
高度感抜群。最後のピック
ルは仙人池側のフェースから
登る。ピナクルの真上に
出る最高のフィナーレ。 $20m$
※下降は同ルートを
シンブル、ダブル各1回
でO.K.

クラック浴いに登る。
45m 登ると残置のビレイ
点有り。浮石多く要注意。

コルから10m
くらいまで歩いて
上がる。適当な所でビレイ。 $10m$

$45m$
V+

III+

浮石バンド

クラック

5峰 7ラック

Dフェース
左ルート

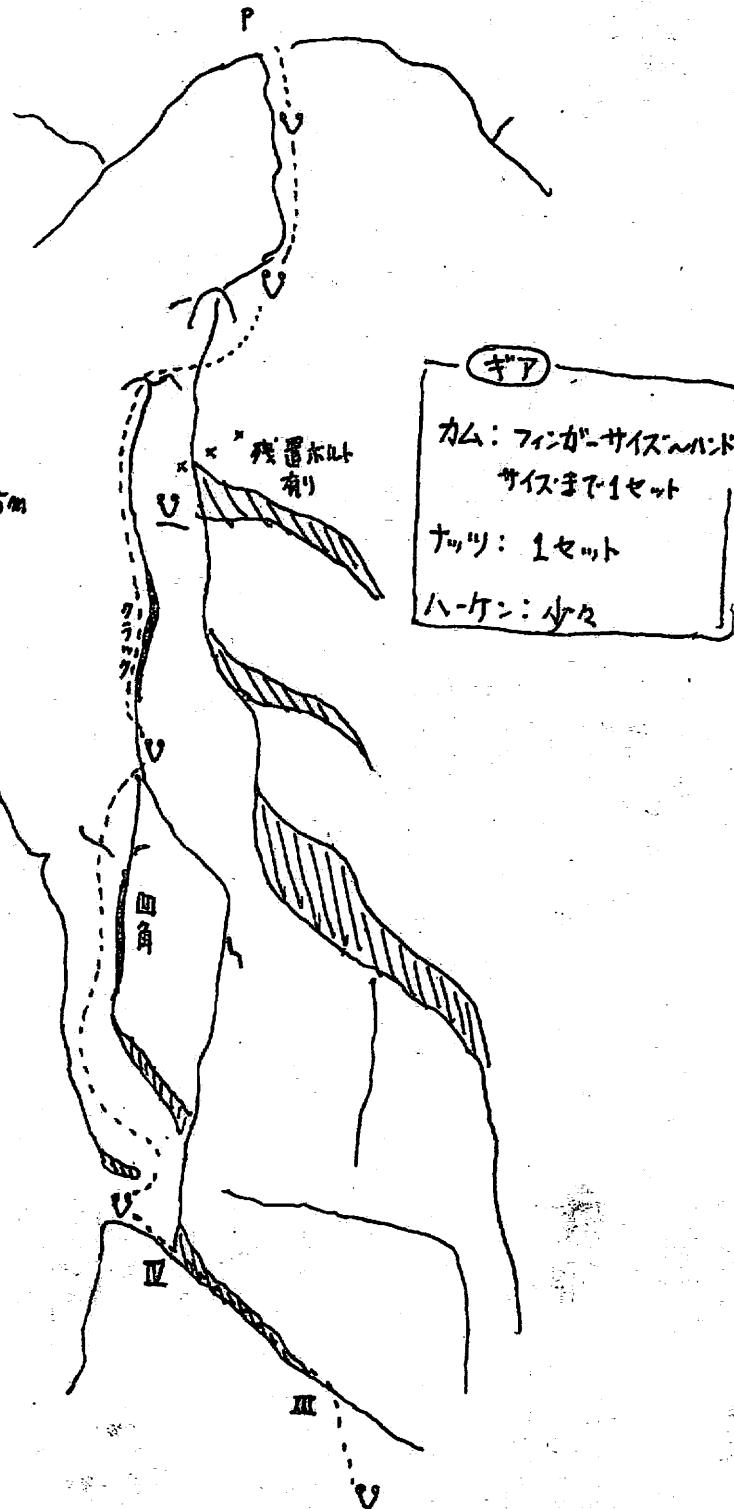
- 基本的にクラックに沿って登る。クラックが切れた所でハンドを右にトラバース
- 富山大ルートに合流。もう2ピッチでピーコクに。

40~45m

出だしは右から小ハングを巻き、その後左上。
凹角左側のガサガサした所で登る。その後、ズラリ右上気味に登り、40~45m
ピレイポイントへ。全体に残置ハケン多し。

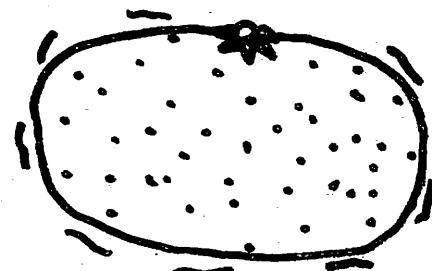
20m

ハンド
草付き
明瞭な
ピレイビン



印 刷：松本

印 刷 日： 10/10 (木)



編 集：佐藤

表 紙：三森